

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

Our Life 159号

静岡福祉文化を考える会事務局

〒424-0841

静岡市清水区追分3-5-17 NPO法人泉の会内

Tel:054-367-2878 Fax:054-367-2884

- ＊ 内容 ＊
- 第24回静岡県福祉文化研究セミナーで“つながるご近所福祉”を語る…………… P.1
 - シリーズ②「静岡発福祉文化の創造」30年の活動検証報告書を覗く…………… P.2
 - シリーズ②「静岡発福祉文化の創造」30年の活動検証報告書を覗く…………… P.3
 - シリーズ①「若者発 ご近所福祉かるた活用事例」紹介・事務局日誌拝見・編集後記…………… P.4

本会は、平成8年9月結成7年目(平成14年)、日本福祉文化学会からの要請により平成14年11月30日・12月1日の2日間、裾野市市民文化センターで「第13回学会全国大会静岡大会」の開催に共催し、大会事務局機能を持ち、全力で取り組んだ。

「富士山麓 いのちとくらしによりそう福祉文化の創造と推進」を大会テーマに、全国から650名余の参加者を迎えて、「福祉文化」を熱く議論し合った。

この「福祉文化」の学び合いを、今後、県内外に発信続けようと、この大会を「第1回静岡県福祉文化研究セミナー」して、「静岡発 福祉文化の創造」を実践し続け、ここに24回目のセミナーを開催する運びとなった。

相変わらず、長引くコロナ禍下、地域コミュニティの希薄化が気になる中で、見え隠れしている「ご近所福祉」を更に掘り下げて、右記のプログラムにより、(1)福祉文化 その原点は何かを学ぶ場 (2)静岡発 福祉文化の創造24年のセミナーの道程を学ぶ場 (3)「私にとってのご近所福祉のアイデアをだしあう学ぶ場 (4)協働」による地域づくりを検証する場 (5)融合」による地域づくりを検証する場 の5つの着眼項目を基に、11月29日(土)静岡市清水区追分「寄ってっ亭」で開催した。「基調報告」では、地域活動には「協働」は不可欠であることを本会30年間の活動を通じて検証したことを報告した。

後半の「円卓トーク」では、参加者それぞれの地域の現状を語りあいながら「何色に置き換えられるか」、そして、「これから、どのような色に塗り替えられるか」を、配布した色紙で紹介し合った。

Aさんは、現在、町内会の役員をしている立場から、その色は「黄色」(住民の協力がある)であり、これを持続していきたい、Bさんは、勤務する事業所周辺の地域を捉えて「青色」を提示され、更にお互いに関心を持てる地域にしたいと「きみどり」を紹介された。Cさんは、長年地域に根差した活動実践者の立場から「白色」を提示され、いつでも塗り替えられるように努力していきたいと説明された。今回は、新たに、主任児童委員になれる方が、これからの抱負を語っていただくなど、サロン風で、語れる和やかなひと時をすごした。



*新たに主任児童委員の抱負を語るBさん *いろいろと、地域性のある“ご近所”を語りあう *みんな協力しあっています。だから・・

「第2回公開型研修会」のご案内 参加者とともに、「静岡発 福祉文化の創造」30年を総括

結成30年を迎えた本会は、2年前から「30年検証誌」の編集作業に取り組んできた。

完成した「30年検証誌」を「第2回公開型研修会」の参加者に配布し、改めて「静岡発 福祉文化の創造」のこれまでとこれからを語り合う。 定員：20名 参加費：無料

*日 時 令和8年 3月 7日(土) 13:30~15:30

*会 場 静岡市清水区追分3-5-17「寄ってっ亭」 (電話 054-367-2878)

*プログラム (1)基調報告 「静岡発 福祉文化の創造30年の軌跡」
(2)円卓トーク 「地域活動のプロセスを探る」

*問い合わせ・参加申込先：〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
Tel&fax 054-624-1924 携帯 090-4861-4547 Email:monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

●シリーズ②「静岡発福祉文化の創造」30年の活動検証報告書を覗く

本会は、「静岡発 福祉文化の創造30年の軌跡を検証する」を2025年度の活動テーマに掲げ、これまでの30年間の道程を2023年度から現在まで、3年間検証準備作業に取り組んできた。

これからの共助社会再構築の提言として「人間らしい豊かさ実践30年検証報告書—静岡発 福祉文化の創造軌跡30年・草創期からご近所福祉検証期を辿る—」の作成作業は、今年度4月から本格的に編集作業取り組み、このほど発行にこぎつけた。内容は、第1章から第9章・資料編、本文264P。

本誌158号から、シリーズで、「検証報告書」の概要を掲載している。

今回は、シリーズ②「第2章 県内各地で学んだ現場セミナーから、“福祉文化”を発信」

本会は、「さまざまな福祉・ボランティア活動に携わる人と市民と一緒に、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考え、その改善のために努力する。」を活動目標に、平成8年9月スタートし30年が経過した。大きな社会の変化の中、「3つの活動基調」「3つの柱立て」で取り組んできた活動を次の5期にまとめた。

◇「第1期 草創期」 本会結成から実践活動6年間

◇「第2期 協働期」 日本福祉文化学会全国大会静岡大会(平成14年)から6年間

◇「第3期 実践融合期」 平成20年度から27年度まで7年間の、静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業(長寿者の孤立・孤独防止)」の取り組み

◇「第4期 共創社会実現期」 平成27年度から令和元年度までの5年間

◇「第5期 ご近所福祉検証期」 令和2年度から現在までの6年間

第2章では、結成後、無我夢中で取り組んだ「草創期」(平成8年度～平成13年度)の6年間と「協働期」(平成14年度～平成19年度)の6年間を中心に振り返る。[啓発学習活動:県内各地のさまざまな実践活動を静岡発 福祉文化の創造の視点で学び合う][実践地区活動:県内各地の実践活動事例を共有し合い、それぞれの地域性を地域診断し合う]から、大いに県内外に「静岡発(地域発)福祉文化の創造」の発信に努めた福祉文化実践活動を振り返る。この時期は、学校教育領域と地域福祉領域における両領域において、ボランティア・福祉教育の推進が積極的に取り組まれていた時期であることや、介護保険制度の導入による、福祉人材育成事業を重点に社会が動いていた時期でもあり、若い世代層の福祉領域への関心が高まり、本会の事業に多くの若者層が参加した。特に、「協働期」(平成14年度～平成19年度)の6年間は、「青年の生きがい」「地域のあり方」「子どもを取り巻く地域環境」「団塊世代」等、身近な地域の課題に学ぶ福祉文化実践の取り組みを展開した。

1 「結婚」「共働き」「地域」「父親」「障害児者理解」論議

●「鈴木君なぜ結婚したの? 杉山さんなぜ結婚しないの?」の学びに140名参加

若者層の会員が多かった本会結成当時は、自由に議論が出来るテーマを掲げた研修に心掛けた。平成9年(1997年)2月9日静岡市内で「鈴木君なぜ結婚したの? 杉山さんなぜ結婚しないの?」公開型研修会には、遠くは、広島県、奈良県、東京都、埼玉県等県外参加者を含めて140名を超える参加申し込みとなった。福祉文化の視点で“結婚”をテーマにした研修会を、全国的にマスコミが告知をいただいた結果であった。県内外の結婚相談員をはじめ、40歳前後の子どもを持つ親等予想外の参加者の受け入れに、急きょ会場を変更しての開催となった。

第一部・基調講演「おいしい結婚、まずい結婚—今、結婚から何が見えるか」では、今や、結婚するのに努力と勇気がある時代、結婚のための手続きや慣習に左右されやすい。

結婚式場やどこまで親戚・ご近所を招くか、家制度の名残・・・等、また結婚できない男性、男性と女性の結婚観のズレ、家庭・家族を築くという基本的概念のズレ・・・等、鋭い分析や具体的な事例を基にした参加者を飽きさせない生活評論家の金谷千都子先生の魅力ある率直な意見は、「男性も女性も、そして老いも若きもしっかりしてほしい」と力を込めて語られた。基調講演の盛り上がりそのまま受け継ぎ、第二部・公開座談会につなげた。未婚者と既婚者それぞれ男女一各づつが登壇し、現代人にとって「結婚とは」「家庭とは」を等身大で議論しながら、金谷先生のコメントと会場の参加者からの意見も加わり、文字通り会場が一体化し、福祉文化の視点から“結婚”を学び合う有意義な場となった。



●精力的に、静岡県内各地で「現場セミナー」を開催して「福祉文化」を学び合った



*住民懇談会において地域課題を学ぶ(旧富士川町)



*伊豆地域のV連の協力で、世代を超えた宿泊研修



*地域ぐるみの居場所実践活動に学ぶ(袋井市)



*若者世代とともに、ホッと居場所を語る(旧清水市)

●「おもちゃ図書館」活動から「福祉文化」に気づいた

当時、静岡県内では、「おもちゃ図書館活動」が、各地域で熱心に取り組まれていた。「おもちゃ図書館ってなに?」・・・当時の資料から読み取ると、おもちゃをとおして、ハンディをもつ子、もたない子が、共にふれあい、交流する場、そして、ハンディをもつ子どもたちが、地域社会の中で孤立することなく楽しく遊び、多くの子どもたち、ボランティアの方々との温かい輪の中で育つ場と紹介されている。障害児者理解をテーマに、会員以外に一般市民や、韮山・静岡・焼津・富士等県内のおもちゃ図書館活動に関わっている関係者も加わり、27名が「かけがわキューピーおもちゃ図書館」を訪問し、「おもちゃ図書館の一日」を学んだ。



2 「大人と青年」から、再び「地域」「ボランティア」論議

●積極的な若者参加で、現場セミナー「大人の言い分、若者の言い分」で盛り上がる

本会結成以来、しばらくは、福祉に関心を持ち、積極的に地域参加しようとする若者の提案により、「現場セミナー」は、合宿型・公開型・参加型プログラムの展開が続いた。

結成2年目の平成9年(1997年)8月9日・10日に「朝まで生福祉 世代や領域を超え、福祉文化を語る合宿セミナー」開催(前述)から3年後、参加しやすい7月下旬に、10代の高校生から、大学生、会社員、教員、主婦、福祉関係者、年金生活者等25名が参加して、旧天竜市内で「大いに語ろう、大人の言い分、若者の言い分」をテーマに開催した。延々と2日間で12時間もの議論を交わした。歌にゲームにレクリエーションダンスとあつという間に、「他人」から「他者」へと、参加者全員が笑いあり会話ありで溶け込み、語れる環境も整い、仲間づくりが出来たようにも見えた。すでに、ここで「福祉文化」を参加者それぞれが読み取れたような雰囲気であった。語り合ったグループ発表を聞きながら、さらに意見交換をした。



シリーズ①「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します



「静岡福祉文化を考える会」は、これまで、10年間にわたり、『若者発ご近所福祉かるた』を製作(300セット)し、県内の各方面に配布提供した。三度、令和6年度に、赤い羽根共同募金助成事業により、このかるたの活用状況を調査し、その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。今月号(第159号)から、活用事例をシリーズで紹介する。

第1回は「家庭・家族：高齢者自身の学習」

高齢者の、これまでのご近所を振り返り、かるたの「読み札」を、用意した「ご近所福祉かるたノート」に毎日書き綴りながら、次世代につなぐ思いを記録する。

■進め方

- *「若者発 ご近所福祉かるた」誕生の由来等を理解し、「かるた」を保有している、近隣の各種団体・福祉施設・地域実践者等で、貸出の手続きをして学習する。
- *身近なご近所へのこれまでの関わりを振り返る。
- *用意した「ご近所福祉かるたノート」に、毎日、少しずつ「読み札」を書き取る。
- *書き綴った「読み札」の隣の行に、ご近所の様子やこれからのご近所への思いを書き綴る。
- *書き綴った「ご近所福祉かるたノート」を「日記」として保管して、振り返りをする。

■楽しさの工夫

- *ご近所に住んで〇年、ご近所さんと日頃の挨拶や会話などを通じて、どこまでお付き合いが出来ているか、「ご近所福祉かるたノート」に書き留めた内容を振り返りながら、明日へのつなぎをしていくことで張合いが持てる。
- *時々、「若者発 ご近所福祉かるた」の「読み札」を大きな用紙に書き写しながら、生活に変化をもたせ、日々、継続し励みをもたせる。

■留意点

- *現在の生活で、不安を感じていることはないか、誰に相談することが出来るか、元気なうちに、「ご近所福祉かるたノート」にいっしょに書き留めておくこと心強い。生活上の情報が、ご近所から常に届くように、日頃からご近所さんとの会話を心掛けていく。地域行事には、出来る限り参加し、「ご近所福祉かるたノート」に書き留めて、検証していくことも心掛けたい。



☆☆☆☆ 事務局日誌拝見(9/01~12/01) ☆☆☆☆

09/01	「30年誌」の印刷業者発注作業前の最終調整作業(～12/10)
09/25	「愛恵福祉支援財団」の助成事業をメールで申し込む
10/09	「30年誌」の最終仕上げ作業に取り組む(～12/02)
10/20	会員及び関係者等に「第24回福祉文化研究セミナー」案内及び「OUR LIFE 158号」を発送する。
10/27	磐田市において、本会の活動を紹介する
11/25	「愛恵福祉支援財団」より、助成事業「不採用」の通知届く
11/29	「第226回委員会」開催、「第24回静岡県福祉文化研究セミナー」開催
12/01	「OUR LIFE 159号」発行し、会員及び一般市民に配布・メール送信実施

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年の平成8年9月1日に発足し、「静岡発 福祉文化の創造」をもとに、関係団体との協働で、身近な福祉問題を活動テーマに、30年間、福祉文化実践活動を展開中。

特に、2020年度(令和2年)以降は、「福祉文化とご近所福祉」を基に、活動を具体化している。本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」。

更に、「調査研究活動」「実践活動の検証」「啓発学習」の3つの具体的な柱立てにより活動に取り組んでいる。◆ブログにより、広く本会活動を発信中。

◆関心のある方は、下記に問い合わせを。

■会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円

■問い合わせ・連絡先：424-0841 静岡市清水区追分3-5-17

NPO法人 泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884

2年間、取り組んできた「静岡発 福祉文化の創造30年検証誌」は、第1章から第9章、資料編の構成で、A4版264Pにまとめ、最終仕上げ校正作業に取り組んでいる。

あくまでも、これまでを検証し、これからをどうするかに焦点を合わせて、作業を進めてきた。3月の研修会で公表・総括をする。

良い2026年をお迎え下さい。



焼津福祉文化共創研究会QRコード



静岡福祉文化を考える会QRコード